

# 治療卒業生と 主治医の 特別座談会



治療卒業生からの応援メッセージ スペシャル企画



司 会：大木小児内分泌代謝クリニック  
院長 おおき ゆかし 大木 由加志 先生  
卒業生：Y君(22歳) Mさん(19歳)

今回はスペシャル企画として、主治医の大木由加志先生のもとで成長ホルモン治療を続けてこられた2人の治療卒業生をお迎えして、治療を始めたときの心境や思い出、治療を続けている患者さんにご家族に向けたメッセージをうかがいました。今だから話せるナイショの話(?)もあわせてご紹介します!



## 治療を受けておいて良かった

**大木** 今日は、成長ホルモン治療を終えた卒業生のお2人に「座談会をしよう」と声をかけて集まっていたいただきました。せっかくの機会なので、ざっくばらんに話を聞かせてください。  
まず、成長ホルモン治療を始めたきっかけを聞かせてもらえますか？

**Y君** 僕が治療を開始したのは小学校6年生の6月です。髄膜炎から下垂体機能低下症を併発したため、大木先生のいらした大学病院でホルモン補充治療を始めることになりました。それまで僕は大柄な方だったのですが、成長曲線をたどると、そのあたりから身長が伸びなくなっていたことも分かりました。

**Mさん** 私は小学校5年生の春、転校した学校の健康診断のとき、背が低すぎるということで病院の受診を勧められたことがきっかけです。検査の結果、ターナー症候群による低身長ということが分かり、成長ホルモンの治療を始めることになりました。

**大木** そうそう、ここから治療が始まるわけだけど、他の薬と違い、成長ホルモンは自己注射が必要です。この点で抵抗はなかったですか？

## Y君のプロフィール



22歳の大学3年生。  
現在の身長：168.9cm  
治療開始年齢：12歳(小学校6年生)  
高校時代は単身でフランスに渡り1年間の留学を経験し見聞を広める。現在は、希望企業からの内定取得を目指して就活中。

## Mさんのプロフィール



19歳の高校3年生。  
現在の身長：147cm  
治療開始年齢：11歳(小学5年生)  
中学の3年間は陸上部に所属し、長距離選手として活躍。卒業後は、介護福祉士の資格をとってケアの仕事に就くことが目標。

**Y君** 最初は、必要な治療なら仕方ないかと素直に受け入れていました。注射も最初から自分で打っていたし、記録ノートもつけていました。少し面倒でしたけど、特にイヤというほどではなかったです。ただ、反抗期に入っていたので、母親から「ちゃんと注射したの?」とか「早く寝なさい」かとかうるさく言われると、「分かっているよ!」ってイラッとして、反抗的な態度をとったときもありました。

**Mさん** 私は注射はイヤでした。だから、1週間のうち1日、注射のお休み日があったその日が楽しみでした。それくらい注射嫌いだったけど、成長ホルモン治療を卒業した今になってみると、できるときに治療を受けられてよかったな、とは思います。

**Y君** それは僕も同じです。当時は子どもすぎて理解できないことも、あとから分かることも多いですから…。反抗的な態度をとったりして、母親には申し訳なかったと思っています。

### 治療効果を実感したときのこと

**大木** 治療効果についてはどうですか? 「これで伸びるぞー」といった期待や夢はなかった?

**Y君** 僕自身は、過剰な期待はなかったです

ね。むしろ、「本当に背が伸びるのか?」と、疑いの気持ちでみていたところもありました。

ただ、中学3年生のときに運動してもいいことになりテコンドウを始めたんですが、それがすごく楽しくて…。この時期は身長もよく伸びたし、からだも絞れてきたので、治療の手応えを感じることができました。

**Mさん** 私も、中学に入って陸上を始めたころから食欲が出てきたんですね。そしたら、背も少しずつ伸びてきました。

背が伸びると、目線が高くなりますよね。「わー、伸びてる」って実感して、わくわくしたことを覚えています。

**Y君** 身長へのこだわりという点でお話すると、以前は駅で通りすぎる人を見て、自分より高いか低いかわざわざ意識にチエックすることがあったんです。でも、高校2年のとき留学先から帰ったら、尺度が別なものになったというか、別の視点で自分と他人を比べられるようになっていました。それ以来、身長へのこだわりもほとんどなくなりました。

### 「成長曲線」がものをいう

**大木** では、途中で注射を止めたいと思った



すべてお見通しと  
思っていました

注射を続けているかどうかは  
成長曲線で、だいたい分かります。  
顔色で判断してるわけではありません

そうですね～

ことはありましたか？

**Y君** うーん、完全に止めよう、ということには  
なかったです。ただ、注射を打ち忘れたり、記  
録ノートを適当につけてしまったときがあっ  
て、そんな時は、診察室で大木先生とお話しす  
るのが気まずかったことはありません。

**Mさん** その気持ち、よく分かります。私も注  
射をさぼりがちになって身長が伸びてない  
きに先生の所に行く、「伸びが悪いですね。注  
射をキチンと打っていますか？」って言われて  
「まずい、ばれた！」とあせったことがあります  
もん(笑)。

**大木** あのね、注射を続けているかどうかは、  
患者さんの顔色をみて判断しているのではあ  
りませんよ。成長曲線をみれば、だいたい察し  
がつくんです。

**Mさん** 成長曲線か…。そうですね～。

### 治療できる時期をムダにしないで

**大木** ここで、成長ホルモン治療を続けている  
患者さんにメッセージを聞かせてもらえますか。

**Y君** 月並みかもしれないけど、治療できる  
時期は限られているので、そのチャンスを逃さ  
ないで欲しいなと思います。

親への反発とか治療への不満などから、イヤ

になることもあるかもしれません。でも実際に  
やる事といったら、消毒して、注射を打って、片  
付けるくらい。さほど苦行くぎょうというほどではない  
ので、親とバトルしたり考え込んだりしないで、  
淡々とやった方がいい。今の自分だったらそう  
思います。あとは、大木先生がよく言われてい  
るように、夜更かしせずに早く寝ることかな。

**Mさん** 私も、治療できるうちは、きちんと続  
けた方がいいということをお伝えしたいです。

私自身、先生には、まだ伸びるって言われて  
いたのに、少しさぼってしまって、このくらい  
の身長でとどまってしまうましたが、バイト先  
の飲食店で働いていると、高いところのお皿が  
とれないことがあるんですね。そんなときは、  
「やばらなかつたら、もっと伸びたかな」と思っ  
たりします。夜更かしもしていたし…。

やっぱり、主治医の先生から言われたこと  
は、ちゃんと聞いておいたほうがいいし、でき  
ることはやっておいた方がいいと思います。

**大木** おや、いいこと言うね(笑)。

今日はいろいろな話が聞けて、とても参考  
になりました。2人ともこれから就職活動が  
控えているけど、ぜひがんばってください。私  
も応援しています。